

女性のままごとがからだを知る

女性特有の病気について

シリーズ最終回

対馬 ルリ子(産婦人科医師)

前号でご説明したように、女性には、男性と異なる点があります。それは、女性ホルモンの動きで、毎月の排卵にもなっておくる月経、妊娠と、卵巣の寿命によってもたらされる更年期で、あきらかに男性とは異なった変化を女性の心身にもたらします。

ありましよう。具体的には、集中力や判断力がおちる、むくむ、眠くなる、神経過敏になるなどの症状がでやすくなります。そして、両方のホルモンが低下すると、うつ、肩こり、頭痛、めまいなどの更年期様症状が出ます。

このように、女性は、大なり小なり、月経の周期や月経によって、体調や精神的な変調をきたしやすい構造をしています。

このような女性の体やホルモンの特徴をふまえながら、女性におきやすい健康問題について整理してみましよう。

1. 月経障害(月経不順、無月経、月経困難症、PMS)
2. 望まない妊娠
3. 子宮内膜症、子宮筋腫
4. 乳がん
5. 性感障害(クラミジア、ヘルペス、カンジダ、HIVなど)
6. うつ
7. 摂食障害
8. 不安障害
9. 片頭痛
10. 甲状腺疾患

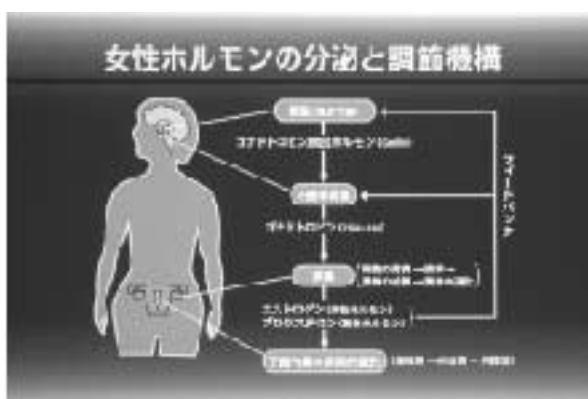
11. 自己免疫疾患(リウマチ、シェーグレン症候群、SLEなど)
12. 更年期障害
13. 骨粗鬆症
14. DV(家庭内暴力)

月経障害について

月経とは、平均12歳(初経)から50歳(閉経)までのあいだに、約1ヶ月の周期で繰り返す、3〜7日間持続する性器出血のことをいいます。正常周期は25〜38日ですが、周期や持続日数、月経量が異常となったり、月経にともなう症状が甚だしいときには、月経障害と呼んでいます。

15歳を過ぎても月経が発来しないときには原発性無月経といい、治療を開始します。原因としては、染色体や遺伝的な原因のほか、体の発育状態が不十分、すなわち脂肪組織が少ない、あるいは、激しいスポーツや精神的ストレスなどによる場合もよくみられます。

一度来ていた月経が止まったときには続発性無月経といい、3ヶ月以上月経が止まっているようなら治療を開始します。なぜなら、視床下部―下垂体系(脳の性ホルモン指令系)と卵巣(女性ホルモンの円滑なネットワークは、長期間止まってしまうと戻りにくくなるからです。続発性無月経も、ダイエットなどによる急激な体重減少や、精神的ストレス、全身の病気や、内服している薬剤によって引き起こされます。



女性ホルモンのしくみ～視床下部―下垂体―卵巣系

PMS(月経前症候群)は、月経困難症とともに、性ホルモンのバランスや機能が悪い女性、忙しく疲労やストレスがたまっていく女性に多い傾向があります。思春期や更年期前、小さい子どものいる女性やハードワークに耐えている女性にも多いようです。月経前の1〜2週間に、腰痛や腹痛、乳房痛、むくみ、吐き気、倦怠感、イライラやうつ、便秘や下痢、頭痛、肩こり、めまいなどを感じ、その程度がひどいために生活に支障をきたします。PMSは、月経がはじまると症状がおさまっていきますが、月経困難症があると、また腹痛、腰痛などで苦しむことになります。

月経痛は、子宮内膜症や子宮筋腫、子宮内感染症の症状として発現して